

2024年3月

番号	業務項目	必修/選択	研修目標	標準的なスケジュール	責任者	要望
2-2	調剤業務	必修	個別化医療を実現するための調剤業務の遂行とそれに必要な知識とスキルを習得する。	3か月間程度		
2-3	医薬品の供給と管理業務	必修	医薬品の供給と管理体制を理解し管理業務を実践する。	2週間以上		
2-4	医薬品情報管理業務	必修	医薬品情報を収集・評価し、整理・加工して提供するスキルを習得する。	2週間から1か月間		
2-5	病棟業務	必修	入院患者と直接接することにより、患者の病態に応じた服薬指導やフォローアップ、コミュニケーションのスキルを高める。薬物治療の観点からチーム医療に参加し、他職種との関わり方を学ぶとともに、薬学的見地からの見解を発信する。持参薬の服薬状況等の聴取を通じた薬物治療に関する問題点(ポリファーマシー等)の抽出、服薬計画の立案、入院患者への服薬指導等を通して薬学的知見に基づく積極的な介入や提案を実践する。退院後の適切な薬物治療の継続のため、退院時カンファレンスへの参加、情報提供書の作成・提供等により、地域医療(多職種)との連携を実践する。	6か月間程度		
2-6	在宅訪問(在宅医療・介護)	必修	自宅や施設で生活する患者を訪問して服薬指導や薬剤管理を行い、在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括ケアシステムにおける他職種の役割を学ぶとともに、薬剤師としての役割を果たす。	1か月間程度(対象患者との継続的な関わりが必要であることから、実施時期については柔軟な運用としても良い)		
2-7	医療安全	必修	医療の質を担保し、患者及び医療従事者にとって安全な医療を提供できる。特に、医薬品の安全管理体制の確保のため、薬剤師として主体的な役割を果たす。	全研修期間		
2-8	感染制御	必修	医療現場に応じて感染症を発生させない環境整備や感染予防を実践する。感染症発生時(新興・再興感染症を含む)における感染拡大防止のための対応を図るなどの感染制御に努める。	全研修期間		
2-9	地域連携	必修	病院と薬局の連携や地域の医師、看護師等との多職種連携等、地域連携の必要性を理解し、地域における患者中心の医療の充実に努める。	全研修期間		
2-10	無菌調製	必修	適切な無菌的混合調製を理解し実践するスキルを身に付ける。	2週間程度		
2-11	がん化学療法	必修	がん化学療法のレジメン管理や抗がん剤の調製、副作用や疼痛評価、支持療法薬の提案、投与計画への参画など基本的技能・知識を身に付ける。	2週間程度		
2-12	TDM	選択	血中濃度測定に関する基本的知識や手順を理解し実践する。薬物特性と患者個々の状態に適した薬学的管理を理解し、指導薬剤師の指導の下、投与設計・処方提案ができる。	1か月間程度		
2-13	ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療	選択	スペシャルポピュレーションとして、薬物動態の異なる小児・産婦人科の薬物治療、重篤度の高いICUや問診が中心となる精神科の薬物治療など、困難度が高い薬物治療を理解する。	1～2か月間程度		

※各シートにおける評価項目や目標到達値等については、目安として示したものであり、各研修施設においてそれぞれの医療機関・薬局の研修体制や研修カリキュラム・プログラムに合わせた表現等に適宜修正若しくは変更して活用して差し支えない。

評価シート

氏名:

評価日:

調剤業務		
到達時期	1年	
調剤業務	研修目標	個別化医療を実現するための調剤業務の遂行とそれに必要な知識とスキルを習得する。
	内容(方法)	調剤内規、マニュアル等を用いた事前説明を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

<到達度>

1. 観察・聴講した（概要が分かる）
2. 説明できる（理解している）
3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける）
4. 1人で基本的なことができる
（監督下にて基本的な業務が遂行できる）
5. 1人で様々なことができる
（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）
6. 経験豊富に行える（問題発生時に適切に対応できる）
7. 指導ができる（指導ができ、より多くの業務ができる）

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

調剤業務	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 調剤の受付業務(監査含む)が実践できる							☆			
2 内服計数調剤が実践できる							☆			
3 散剤の調剤が実践できる							☆			
4 外用剤の調剤が実践できる							☆			
5 水剤の調剤が実践できる							☆			
6 調剤の鑑査が実践できる							☆			
7 注射受付(監査含む)が実践できる							☆			
8 注射調剤が実践できる							☆			
9 注射の鑑査が実践できる							☆			
10 処方箋の記載事項を確認できる							☆			

評価シート

11	疑義照会を実践できる							☆			
12	薬剤の保管方法を理解できる							☆			
13	特定生物由来製品の調剤が実践できる							☆			
14	麻薬の調剤が実践できる							☆			
15	窓口対人業務が実践できる(院内スタッフ)							☆			
16	窓口対人業務が実践できる(患者)							☆			
17	患者の薬剤の使用状況を継続的かつ的確に把握できる							☆			
18	電子カルテおよび部門システムが理解できる							☆			
19	電子カルテおよび部門システムが使用できる							☆			
20	調剤機器の取り扱いができる							☆			
21	当直・夜勤対応ができる							☆			
22	緊急時の対応等について理解できる							☆			

院内製剤	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1	院内製剤のクラス分類について説明することができる				☆					
2	院内製剤の意義, 品質管理, 調製方法について説明することができる				☆					
3	調製に適した作業環境を選択することができる				☆					
4	調製に適した装備を装着できる				☆					
5	調製に必要な器材, 原料を適切に選択することができる				☆					
6	調製記録を作成することができる				☆					
7	調製された薬剤の鑑査ができる				☆					
8	調製後の後片付けができる				☆					

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

医薬品の供給と管理業務		
到達時期	1年	
医薬品の供給と管理業務	研修目標	医薬品の供給と管理体制を理解し管理業務を実践する。
	内容(方法)	院内マニュアル等を用いた事前説明を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 医薬品の流通体制が理解できる							☆			
2 適正在庫に基づいた医薬品の発注が実践できる							☆			
3 医薬品の検品が実践できる							☆			
4 麻薬の管理が出来る							☆			
5 毒薬の管理が出来る							☆			
6 向精神薬の管理が出来る							☆			
7 覚せい剤原料の管理が出来る							☆			
8 特定生物由来製品の管理が出来る							☆			
9 限定薬(患者・診療科等)の管理が出来る							☆			
10 投与に必要な補助器具、説明文書等の管理が出来る							☆			

評価シート

11	院内他部署の医薬品管理が出来る							☆			
----	-----------------	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

医薬品情報管理業務		
到達時期	1年	
医薬品情報管理業務	研修目標	医薬品情報を収集・評価し、整理・加工して提供するスキルを習得する。
	内容(方法)	院内マニュアル等を用いた事前説明を経て実践を行う。医薬品情報管理室担当(DI担当)として実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる
(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる
(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 記録を含め、質疑応答に対応できる				☆						
2 院内で使用可能な医薬品情報源の特徴を理解し、適切に使用できる					☆					
3 医薬品情報要約(DIニュース等)を作成できる				☆						
4 処方・注射オーダーのチェックシステム(マスタ)を作成・更新できる			☆							
5 プレアボイド症例を報告できる				☆						
6 医薬品安全性情報報告を報告できる				☆						
7 未承認・適応外の医薬品・医療機器使用に関する病院内の取り決めを説明できる		☆								
8 医薬品採用/緊急(臨時)採用の手順を説明できる		☆								
9 新規採用薬・採用見直しのために、複数の医薬品を評価できる			☆							
10 薬剤師が実践している業務内容の評価を取りまとめることができる			☆							
			5/25							

評価シート

		1	2	3	4	5	6	7	最終 到達度	現場指導者	
										最終 到達度	評価者
11	医薬品情報を相手が理解できる形で提供できる(コミュニケーション)。				☆						
12	相手の業務内容を考慮して質問内容を理解し、適切に対応できる(コミュニケーション)。				☆						

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

病棟業務		
到達時期	1年	
病棟業務	研修目標	入院患者と直接接することにより、患者の病態に応じた服薬指導やフォローアップ、コミュニケーションのスキルを高める。薬物治療の観点からチーム医療に参加し、他職種との関わり方を学ぶとともに、薬学的見地から見解を発信する。 持参薬の服薬状況等の聴取を通じた薬物治療に関する問題点(ポリファーマシー等)の抽出、服薬計画の立案、入院患者への服薬指導等を通して薬学的知見に基づく積極的な介入や提案を実践する。退院後の適切な薬物治療の継続のため、退院時カンファレンスへの参加、情報提供書の作成・提供等により、地域医療(多職種)との連携を実践する。
	内容(方法)	指導薬剤師による事前説明/講義を経て病棟業務の実践を行う。 1~2ヶ月/1病棟をサイクル目安としローテーションする。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆;目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者		他職種からの評価	
									最終到達度	評価者	医師	看護師
1 入院前支援業務、救急外来、集中治療室、手術室業務、ハイケアユニット病棟、一般病棟、退院後ケアカンファレンス等の入院前から退院後の患者の流れを理解し、説明できる				☆								
2 患者、生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる				☆								
3 手術や検査時の使用薬を含め、内服薬、外用薬、注射薬の実施状況が把握できる				☆								
4 医薬品情報の収集、提供ができる				☆							どちらか一方	どちらか一方
5 持参薬鑑別、服薬計画の立案ができる				☆								
6 医薬品を中心とした相互作用を確認することができる				☆								
7 ハイリスク・ハイアラート薬(注:その病院において投薬エラー発生時に有害事象を及ぼす可能性が高い薬剤)の服薬説明ができる				☆								
8 投与量の計算、流量の計算、投与時の注意点についてベッドサイドで確認できる				☆								

評価シート

9	回診、カンファレンスにおいて、薬学的視点で発言ができる		☆															
10	医政局通知等の薬剤師関連業務について説明できる				☆													
		1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者		他職種からの評価						
										最終到達度	評価者	医師	看護師					
11	様々な情報源を確認し、医師に対して処方変更を含めて処方提案ができる。		☆															
12	診療報酬の算定要件について説明できる(病棟薬剤業務)				☆													
13	病棟薬剤業務日誌の作成ができる				☆													
14	紙カルテ、電子カルテを適切に使用することができる				☆													
15	種々の情報源から薬物療法に必要な情報を収集できる				☆													
16	患者、生活者と円滑にコミュニケーションができる				☆									どちらか一方	どちらか一方			
17	患者、生活者、カルテ情報などから患者情報・薬歴などを適切に得て評価できる				☆													
18	処方の妥当性について評価できる				☆													
19	代表的疾患について治療ガイドライン等を参照し、エビデンスに基づいた評価、提案ができる		☆															
20	治療アドヒアランス向上のための提案ができる		☆															
21	薬剤管理指導業務について適切な評価、記録(SOAP形式)の記載が実践できる				☆													
22	患者、生活者に対して薬剤管理指導業務ができる				☆													患者評価
23	効果と副作用をモニタリングするための項目を列挙できる				☆													
24	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる				☆													
25	薬物治療の効果、副作用の発現について患者の症状や検査所見から評価ができる				☆													
26	診療報酬上の算定要件について、それぞれに必要な項目が列挙でき、対応ができる(薬剤管理指導業務)				☆													
27	指導者と情報共有が適切にできる				☆													
28	中央業務、病棟業務担当者と適切に情報が共有できる				☆													
29	入院病棟における様々な状況(急変対応等)での業務を理解し、説明できる				☆													
30	入院、退院、在宅を含めた地域での連携の重要性について説明できる				☆													
31	医師、看護師等と情報共有ができ、コミュニケーションができる				☆									どちらか一方	どちらか一方			
32	医師、看護師等と連携しながら、薬物治療上の問題点解決のための情報を共有し、患者の治療に貢献できる				☆									どちらか一方	どちらか一方			
33	病院内の多様な専門医療チームの活動における薬剤師の役割を説明できる				☆													
34	退院時に薬剤管理サマリーを作成し、転院先病院や地域薬局等との連携ができる				☆													

評価シート

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項	確認印

評価シート

氏名:

評価日:

在宅訪問(在宅医療・介護)		
到達時期	1年	
在宅訪問 (在宅医療・介護)	研修目標	自宅や施設で生活する患者を訪問して服薬指導や薬剤管理を行い、在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括ケアシステムにおける他職種との役割を学ぶとともに、薬剤師としての役割を果たす。
	内容(方法)	指導薬剤師による事前説明/講義等を経て訪問薬剤管理指導を実践する。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる
(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる
(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

		1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
										最終到達度	評価者
1	地域の在宅医療の仕組みや在宅医療に関わる多職種の役割を理解し、連携して対応できる。				☆						
2	患者・生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる。				☆						
3	患者の私的な領域に入る意識を持ち、倫理規範を遵守し、適切な姿勢で対応できる。				☆						
4	患者、家族、介護者および生活者等と円滑にコミュニケーションができる。				☆						
5	医薬品情報の収集、提供ができる。			☆							
6	薬局を中心とした各種通知等の薬剤師関連業務について説明できる。				☆						
7	医薬品の適切な管理、保管方法を説明できる。			☆							
8	医療保険・介護保険の在宅医療に関する制度や公費制度等について理解し、説明できる。				☆						

評価シート

	1	2	3	4	5	6	7	最終 到達度	現場指導者	
									最終 到達度	評価者
9				☆						
10				☆						
11				☆						
12				☆						
13				☆						
14				☆						
15			☆							
16				☆						
17				☆						
18				☆						
19				☆						
20			☆							
21				☆						
22			☆							
23				☆						
24			☆							
25			☆							
26				☆						
27			☆							

評価シート

28	(緩和ケア・終末期への対応) 在宅で看取られる患者(老衰を含めたターミナル)およびその家族に対して、服薬管理を含めた精神的にも寄り添うことができる			☆							
		1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者 最終到達度	評価者
29	(緩和ケア・終末期への対応) 麻薬を含めた残薬の取り扱いについて説明できる (麻薬の安全な回収・廃棄等を含む)				☆						
				☆							
30	(緩和ケア・終末期への対応) 退院後に在宅疼痛緩和に移行する患者の情報を医療機関と共有できる (疼痛緩和独特の注意事項等についての退院元医療機関と情報共有)			☆							
				☆							

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

医療安全		
到達時期	1年	
医療安全	研修目標	医療の質を担保し、患者及び医療従事者にとって安全な医療を提供できる。特に、医薬品の安全管理体制の確保のため、薬剤師として主体的な役割を果たす。
	内容(方法)	院内マニュアル等を用いた事前説明を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した（概要が分かる）
 2. 説明できる（理解している）
 3. 補助的に行うことができる（指示の元動ける）
 4. 1人で基本的なことができる（監督下にて基本的な業務が遂行できる）
 5. 1人で様々なことができる（一通りの業務を1人で適切に遂行できる）
 6. 経験豊富に行える（問題発生時に適切に対応できる）
 7. 指導ができる（指導ができ、より多くの業務ができる）

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
 習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 患者の安全を最優先に考えることができる							☆			
2 患者が医療に参加する重要性を理解できる							☆			
3 問題に対する改善点の導きと共有に取り組める							☆			
4 規則や手順を守ることができる							☆			
5 職員間のコミュニケーションを図ることができる							☆			
6 危険の予知と必要な確認ができる							☆			
7 自己の健康管理をすることができる							☆			
8 医療技術の活用と業務の工夫をすることができる							☆			
9 誤薬を防ぐ対策を理解できる							☆			
10 環境整備(場所、記録内容)を実践できる							☆			

評価シート

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

感染制御		
到達時期	1年	
感染制御	研修目標	医療現場に応じて感染症を発生させない環境整備や感染予防を実践する。感染症発生時(新興・再興感染症を含む)における感染拡大防止のための対応を図るなどの感染制御に努める。
	内容(方法)	院内マニュアル等を用いた事前説明を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 標準予防策(手指衛生、個人防護具)を適切に使用できる							☆			
2 代表的な感染症の予防策と適切な消毒薬を選択できる							☆			
3 2について他者に説明できる					☆					
4 感染症発生時の初期対応を説明できる					☆					
5 針刺し事故時における初期対応を説明できる					☆					
6 感染症症例において適切な抗菌薬の選択ができる				☆						
7 院内感染に関するチーム活動(ICT、AST)の役割を理解している							☆			

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

地域連携		
到達時期	1年	
地域連携	研修目標	病院と薬局の連携や地域の医師、看護師等との多職種連携等、地域連携の必要性を理解し、地域における患者中心の医療の実現に努める。
	内容(方法)	事前説明/講義等を経て実践する。 地域連携において関わりの深い施設への見学なども必要に応じて実施する。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる
(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる
(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 自施設と病床機能・規模の異なる他施設と患者情報の共有を行うこと等において連携できる					☆					
2 地域医療者を含む研修会等に参加し、他施設の医療従事者へ適切な医療を提供するための情報交換会を実施できる。			☆							
3 患者情報以外で他施設と業務連携を行うことができる。			☆							
4 在宅期(主に診療所や調剤薬局)での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる			☆							
5 慢性期(主に中小病院の療養病床)での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる			☆							
6 回復期(主に中小病院の療養病床)での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる			☆							
7 急性期(主に大規模病院や中小病院の一般病床)での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる			☆							

評価シート

	1	2	3	4	5	6	7	最終 到達度	現場指導者	
									最終 到達度	評価者
8 高度急性期(主に大学病院や大規模病院)での適切な薬物治療を理解し、他職種と共有できる			☆							
9 高齢者介護施設(特別養護老人ホーム・介護医療院など)の従事者から見た適切な薬物治療の視点を共有できる			☆							
10 入退院支援看護師/医療ソーシャルワーカーから見た適切な薬物治療の視点を共有できる			☆							
11 ケアマネジャーから見た適切な薬物治療の視点を共有できる			☆							
12 薬局から報告される服薬情報提供書(トレーシングレポート)を踏まえた対応ができる					☆					
13 薬局からの疑義照会に対応ができる					☆					
14 一般用医薬品等の販売や地域住民の健康維持・増進に関する相談に対応できる					☆					

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

無菌調製		
到達時期	1年	
無菌調製	研修目標	適切な無菌的混合調製を理解し実践するスキルを身に付ける。
	内容(方法)	院内マニュアル等を用いた事前説明を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

<到達度>

1. 観察・聴講した (概要が分かる)
2. 説明できる (理解している)
3. 補助的に行うことができる (指示の元動ける)
4. 1人で基本的なことができる (監督下にて基本的な業務が遂行できる)
5. 1人で様々なことができる (一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆:目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 無菌的混合調製の意義、管理、調製方法、輸液処方内容及び配合変化について説明することができる					☆					
2 無菌的混合調製に必要な準備ができる					☆					
3 無菌的混合調製前の監査ができる					☆					
4 無菌的混合調製作業用(無塵衣)の着用ができる					☆					
5 クリーンベンチの操作ができる					☆					
6 無菌的混合調製ができる					☆					
7 無菌的混合調製済鑑査ができる					☆					
8 無菌的混合調製後の後片付けができる					☆					

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

--

確認印

--

評価シート

氏名:

評価日:

がん化学療法		
到達時期	1年	
がん化学療法	研修目標	がん化学療法のレジメン管理や抗がん剤の調製、副作用や疼痛評価、支持療法薬の提案、投与計画への参画など基本的技能・知識を身に付ける。
	内容(方法)	事前説明/講義等を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

<到達度>

1. 観察・聴講した (概要が分かる)
2. 説明できる (理解している)
3. 補助的に行うことができる (指示の元動ける)
4. 1人で基本的なことができる (監督下にて基本的な業務が遂行できる)
5. 1人で様々なことができる (一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆: 目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
									最終到達度	評価者
1 標準レジメンの治療スケジュールを理解し、監査することができる					☆					
2 各レジメンの必要な支持療法薬を理解し、監査することができる					☆					
3 抗がん薬曝露対策(安全キャビネット、防護具、閉鎖式接続器具)を実践できる						☆				
4 抗がん薬を調製することができる						☆				
5 がん化学療法の初回指導ができる					☆					
6 副作用を客観的指標(CTCAE)により評価することができる				☆						
7 必要な支持療法薬を選択し、医師へ提案することができる			☆							
8 経口抗がん薬のアドヒアランスを評価することができる				☆						
9 抗がん薬の減量や延期の必要性について評価し、医師と協議することができる			☆							
10 腫瘍性疼痛を客観的指標(NRS、Face Scale等)により評価することができる				☆						

評価シート

11	必要な鎮痛薬を選択し、医師へ提案することができる			☆							
12	患者からの相談に対応することができる				☆						
13	医師・看護師等の医療従事者からの相談に対応することができる				☆						

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

TDM		
到達時期	1年	
TDM	研修目標	血中濃度測定に関する基本的知識や手順を理解し実践する。薬物特性と患者個々の状態に適した薬学的管理を理解し、指導薬剤師の指導の下、投与設計・処方提案ができる。
	内容(方法)	事前説明/講義・演習等を経て実践を行う。

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる
(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる
(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆: 目標到達値

		1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者	
										最終到達度	評価者
1	TDMの意義及び一般的な対象薬を理解し、自院で扱うTDM対象薬を説明できる					☆					
2	自院でのTDM業務の流れ(オーダー、採血、測定、解析、治療へのフィードバックなど)を説明できる					☆					
3	TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる					☆					
4	血中濃度に影響を与える因子について例を挙げて説明できる					☆					
5	使用頻度の高いTDM対象薬剤(VCM,TEICなど)の初回投与量・維持投与量の算出・処方提案ができる					☆					
6	個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる					☆					
7	高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる					☆					

評価シート

8	肝機能・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる				☆						
9	低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる			☆							

達成状況、状況変化、その他特記すべき事項

確認印

評価シート

氏名:

評価日:

ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療		
到達時期	1年	
病棟業務	研修目標	スペシャルポピュレーションとして、薬物動態の異なる小児・産婦人科の薬物治療、重篤度の高いICUや問診が中心となる精神科の薬物治療など、困難度が高い薬物治療を理解する。
	内容(方法)	指導薬剤師による事前説明/講義を経て病棟業務の実践を行う。 (一般的な内科や外科の薬物治療を経験した後、1~2か月程度実施する。)

スケジュール

日付	曜日	内容	メモ

達成状況報告

- <到達度>
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示の元動ける)
 4. 1人で基本的なことができる
(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる
(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

該当する能力要件について、その到達点を左記の7段階の基準で評定する。自己評価した到達点に到達した日付を記載して下さい。
習得期間の最後に、最終的に到達した到達点を記載して下さい。

☆;目標到達値

	1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者		他職種からの評価	
									最終到達度	評価者	医師	看護師
1 入院前支援業務、救急外来、集中治療室、手術室業務、ハイケアユニット病棟、一般病棟、退院後ケアカンファレンス等の入院前から退院後の患者の流れを理解し、説明できる				☆								
2 患者、生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる				☆								
3 手術や検査時の使用薬を含め、内服薬、外用薬、注射薬の実施状況が把握できる				☆								
4 医薬品情報の収集、提供ができる				☆							どちらか一方	どちらか一方
5 持参薬鑑別、服薬計画の立案ができる				☆								
6 医薬品を中心とした相互作用を確認することができる				☆								
7 ハイリスク・ハイアラート薬(注:その病院において投薬エラー発生時に有害事象を及ぼす可能性が高い薬剤)の服薬説明ができる				☆								
8 投与量の計算、流量の計算、投与時の注意点についてベッドサイドで確認できる				☆								
9 回診、カンファレンスにおいて、薬学的視点で発言ができる		☆										

評価シート

10	医政局通知等の薬剤師関連業務について説明できる				☆													
11	様々な情報源を確認し、医師に対して処方変更を含めて処方提案ができる		☆															
		1	2	3	4	5	6	7	最終到達度	現場指導者		他職種からの評価						
										最終到達度	評価者	医師	看護師					
12	診療報酬の算定要件について説明できる(病棟薬剤業務)				☆													
13	病棟薬剤業務日誌の作成ができる				☆													
14	紙カルテ、電子カルテを適切に使用することができる				☆													
15	種々の情報源から薬物療法に必要な情報を収集できる				☆													
16	患者、生活者と円滑にコミュニケーションができる				☆									どちらか一方	どちらか一方			
17	患者、生活者、カルテ情報などから患者情報・薬歴などを適切に得て評価できる				☆													
18	処方の妥当性について評価できる				☆													
19	代表的疾患について治療ガイドライン等を参照し、エビデンスに基づいた評価、提案ができる		☆															
20	治療アドヒアランス向上のための提案ができる		☆															
21	薬剤管理指導業務について適切な評価、記録(SOAP形式)の記載が実践できる				☆													
22	患者、生活者に対して薬剤管理指導業務ができる				☆												患者評価	
23	効果と副作用をモニタリングするための項目を列挙できる				☆													
24	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる				☆													
25	薬物治療の効果、副作用の発現について患者の症状や検査所見から評価ができる				☆													
26	診療報酬上の算定要件について、それぞれに必要な項目が列挙でき、対応ができる(薬剤管理指導業務)				☆													
27	指導者と情報共有が適切にできる				☆													
28	中央業務、病棟業務担当者と適切に情報が共有できる				☆													
29	入院病棟における様々な状況(急変対応等)での業務を理解し、説明できる				☆													
30	入院、退院、在宅を含めた地域での連携の重要性について説明できる				☆													
31	医師、看護師等と情報共有ができ、コミュニケーションができる				☆									どちらか一方	どちらか一方			
32	医師、看護師等と連携しながら、薬物治療上の問題点解決のための情報を共有し、患者の治療に貢献できる				☆									どちらか一方	どちらか一方			
33	病院内の多様な専門医療チームの活動における薬剤師の役割を説明できる				☆													
34	手術室における薬剤師の業務について理解し、説明できる				☆													

